

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 茨城森林管理署
所在地	茨城県 北茨城市
面積	103.51ha
設定年	1969(S44)年
保護林の概要 (設定目的)	ブナ、ミズナラ、コナラを主体とした代表的な温帯性原生林で、中間温帯域に位置する八溝多賀地域では貴重な森林である。また、茨城県内におけるシラカンバの自生地は非常に少なく、特に群生するシラカンバは、この地域にとって学術上貴重である。さらに、当該保護林は、林木育種事業を計画的、効率的に実施するために遺伝子補給源として活用されており、遺伝資源の確保上貴重である。このため、これらの植物が生育する群落の希少な個体群を保護するために設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	2007年、2012年、2017年、2022年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、コナラ・ミズナラ群落、ミズナラ群落、コナラ群落の生育地において調査プロットを計5箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。
結果概要	森林調査について、ブナやミズナラ、コナラ及びシラカンバに鳥獣害や病虫害は確認されず、概ね健全に生育していた。保護対象種のシラカンバが衰退傾向にあるプロットについて、シラカンバ成木の生育状況に留意しながら、モニタリング調査を継続していく必要がある。 当保護林周辺の地域はニホンジカ生息分布のフロントラインといわれているため、ニホンジカによる影響に留意する。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。